

D—3 家政学の対象と集団生活学の成立

福岡女学院短大 嶋田 英男

1. (1) 家政学が独自の科学として成立することを困難にしている一つの問題は、対象論にある。この対象領域を明確にすること。

(2) それには、いわゆる家庭生活に「準ずる団体生活」を分離し、狭義の家政学と対等の地位にすえる。これは、今後、ますます重要になっていく領域であるから、その成立の諸条件を考えること。

2. 著書、論文等の研究による資料的方法、それは社会政策、福祉政策、福祉学科等との関係に注意する。

3. 家政学の混迷を解決でき、かつ、広義家政学（広義生活科学）の体系が明確となり、研究上、教育上の展望が開けると思われる。